

# トノラボ手持眼圧計 操作ガイド

別冊の取扱説明書を必ずよく読んでからお使い下さい。

## ■ 準備

プローブは Disposable 製品です。再使用はできません。



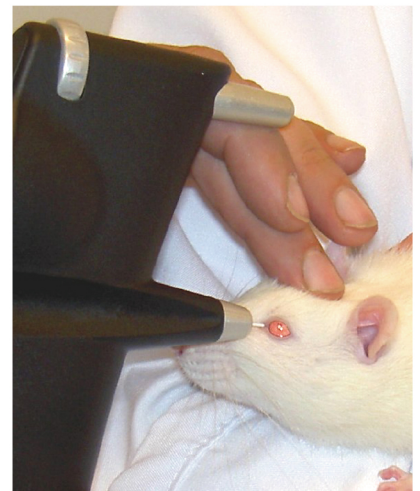
1. プローブが入ったケースの蓋を開け、本体装填部にプローブシャフトを挿入します。プローブヘッド部が3~4mm位出ていればOKです。  
※本体を下に傾けるとプローブが落下するので注意して下さい。
2. 測定ボタンを押すと電源が入り、プローブがロックされます。プローブが前後に動き、ディスプレイに「00」が表示されたらセッティング完了です。
3. ディスプレイに「Lo Rd」の表示が出た場合は、プローブが正しく装着されていません。装填し直して測定ボタンを押してください。



## ■ 測定

測定前にはプローブヘッドに変形等の異常が無いことを確認してください。  
対象動物に応じて「ラット」または「マウス」が正しく設定されていることをご確認ください。(設定の確認・変更は取扱説明書をご参照下さい)

1. 対象動物を保持・固定します。必要に応じて鎮静剤を使用して下さい。
2. プローブの向きを角膜中心部に向けて水平に保ち、プローブの先端が角膜中心部から約2mm離れた位置になるように保持します。右手に眼圧計を持ち、対象動物を押さえた左手で眼圧計を支えるのがポイントです。
3. 測定を開始します。測定ボタンを押すとプローブが動き、角膜に接触します。正しく測定されると「ピッ」と電子音が鳴り、測定値「1.16」が点滅表示されます。「ピピッ」と電子音が2回鳴った場合はエラーです。測定ボタンを押すとエラー表示は消えますので測定を再開してください。
4. 3の操作を6回繰り返します。6回終了すると「ピー」と電子音が鳴り、ディスプレイに「r」または「n」の文字と測定結果「r 16」が表示されます。  
この値が6回分のデータから算出された最終結果です。



- 「r 16」 (バーなし) 標準偏差が低く信頼性の高い数値です。バラツキのない結果が得られました。
- 「r 16」 (下段バー) 標準偏差が僅かに高く出っていますが通常は影響ありません。
- 「r 16」 (中段バー) 標準偏差は高めに出ています。19mmHgを超える場合は再測定を推奨いたします。
- 「r 16」 (上段バー) 標準偏差が高く出ています。再測定を行ってください。

「r/n」の文字が点滅している場合は、測定値の標準偏差(バラツキ)が高いことを示しています。バラツキの程度はバーの位置で示されます。

5. 測定ボタンを押すと、初期画面「00」に戻ります。

## ■ 終了

1. セレクトボタンの右または左を押し、「End」を選択します。
2. 測定ボタンを2秒間押し続けると、「bye」と表示された後、電源が切れます。プローブのロックが外れますので、プローブの落下に注意して下さい。
3. 使用済みのプローブを本体から取り外し、破棄します。
4. 本器は2分間操作されない場合、自動的に電源が切れます。

## 過去のデータの活用について

- ① 初期画面「00」の時にセレクトボタンを押し、「01d」を表示させます。
- ② 測定ボタンを一度押すと、直前の測定結果が「r/n0」に続いて表示されます。「r 16」
- ③ セレクトボタンの右を押すごとに過去10回分の測定結果が新しいデータから順に「r/n0」~「r/n9」と表示されます。
- ④ 初期画面に戻るには、測定ボタンを押して「01d」を表示させてからセレクトボタンで「00」に戻します。

